

(一社) 全国浄化槽団体連合会 「2024年度 水環境保全助成事業 (審査ベース)」

団 体 名	松島湾アマモ場再生会議	
代 表 者	代表 桑原 茂	
所 在 地	宮城県多賀城市笠神3-1-39	
事 業 内 容	<p>「松島湾周辺でアマモ場を再生する活動の実践」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アマモの移植事業 (11月9日・予定)</li> </ul> <p>(内容)</p> <p>冬場に向かって発芽し翌年5月末ごろ種を实らせる生態サイクルのアマモ (海草) を松島湾内の水質浄化、多様な生態系の保全、海水温上昇の抑制、ブルーカーボン (Co2 吸収) などを目的に湾内の繁茂を促進するもの。すでに実施した一般参加による6月の行事で松島湾で採取アマモの種は現在、海中で涵養しており、それを再び会員や一般参加者が選別。移植用のマットや寒天粘土を使用して11月に海中に移植する事業。移植予定面積1ha。船からの撒布の他、ダイバーによる海底への定着などを実施する。</p>	
事業実施期間	2024.11.9	
事業実施場所	宮城県塩竈市北浜緑地護岸・くろしおマリーナ・松島湾内	
事業総額	986,320円	
助成金額	200,000円	

団 体 名	美しい山形・最上川フォーラム	
代 表 者	会長 柴田 洋雄	
所 在 地	山形県山形市緑町 1-9-30 緑町会館	
事 業 内 容	<p>「身近な川や水辺の健康診断」</p> <p>1. 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「身近な川や水路の水質が知りたい」という県民の声に応えるため、誰もが参加しやすく、わかりやすい水質調査を平成14年度から毎年実施。水のにごりや富栄養化（窒素・リン）の問題への理解と関心を高める。</li> <li>・簡単な水質調査キットを使って調べる活動を通じて、子どもから大人まで河川への関心を深め、生活との関わりを理解し、水環境の大切さや改善したい課題を発見することで、水質や水の循環、動植物の生息環境の保全や改善のための取組みにつなげていく。</li> <li>・調査結果はホームページで公表し、情報の共有や地域ごとの課題解決の材料として活用することを期待する。</li> </ul> <p>2. 内容</p> <p>(1) 参加グループ数：80グループ、調査地点240地点を想定</p> <p>(2) 調査の実施期間：6月1日（土）～6月9日（日）                  ※世界環境デー（6月5日）にあわせ、これまで実施してきたとおり、原則として上記期間を設けるが、学校で実施する場合や諸事情を鑑み、実施期間を10月18日（金）までとし、安全、安心に無理なく実施できるよう配慮する。参加者は、この期間内で都合の良い目時に調査活動を行う。</p> <p>(3) 調査項目</p> <p>①パケットテスト6項目（パケットテストや比色カード、調査マニュアル等は当フォーラムが提供。）                  （pH、COD、アンモニア性窒素、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素、リン酸性リン）</p> <p>②川の概要（水温、川幅、水深等）</p> <p>③1メートル透視度計による水の透視度の測定（貸し出しを行う）</p> <p>④水辺環境の目視調査（自然植生、泡立ち、散乱ごみ等）</p> <p>⑤水生生物調査（主催：山形県環境科学研究センター）                  ※調査を希望する団体のみ当フォーラムを通して申込み可能とする。</p> <p>⑥同一地点において、公定法調査に協力いただける参加申込み機関に対して、大腸菌数調査も合わせて依頼する。</p> <p>(4) 調査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施グループより6月14日（※6月10日以降に調査をした場合の最終締め切りは10月25日）まで報告書を提出してもらい、データを集計する。</li> <li>・調査結果を総合的に分かりやすく表すために、調査地点ごとに各調査項目を得点化し、清流指標「水辺診断書」（五角形によるレーダーチャート）を作成し評価する。</li> <li>・ホームページにて報告データを公表すると共に、年度末に河川地図上、流域ごとに水辺診断書の結果を掲載する。</li> </ul>	<p>(5) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パケットテストによる調査にあわせて、パケットテストの精度の参考とするため、一般財団法人山形県理化学分析センター、株式会社理研分析センター、一般社団法人山形県水質保全協会ほか環境分析関係事業所の協力を得て、同一地点において公定法調査も実施する。</li> <li>・上記環境分析関係事業所等からは、初めて参加するグループや小・中学校、高校等のグループの要望に応じて、現地調査サポートの協力をうけ、専門的な分野から水環境に対する啓蒙活動も行う。</li> <li>・小・中学校の実施グループには、総合学習の時間などに水辺の環境を考える参考として活用いただけるよう、報告を受けてから速やかに「水辺診断書」を作成し提供する。</li> <li>・ペットボトルで透視度計を作るワークショップを開催し、小学生の夏休みの自由研究のテーマなどとして水環境を考えてもらえる機会になるよう、この事業への参加を促す。</li> </ul>
事業実施期間	2024.4 ～ 2025.3	
事業実施場所	山形県内全域	
事業総額	497,000円	
助成金額	200,000円	

団 体 名	和光自然環境を守る会	
代 表 者	会長 峯岸 正雄	
所 在 地	埼玉県和光市新倉 1-29-45	
事 業 内 容	<p>「身近な川の水質調査等」</p> <p>1. 内容</p> <p>① 定例美化活動 毎月第1土曜日午前中に実施しています。美化活動は全長3.4kmの越戸川の下流部約1.5kmの区間をほぼ三等分してローテーション方式で行っています。美化活動は現在埼玉県の川の国応援団制度に基づき運営されており、ゴミ袋・軍手等の作業用消耗品は県が無償で提供し、収集したゴミは和光市が無料で迅速に処分しています。収集ゴミにも変化が見られ近年は家電製品、工業部材等の粗大ゴミが大幅に減少し、現在ゴミの相当部分は各種の廃プラスチック類であり、県や市と連携して、6年前から海洋プラスチックゴミ削減キャンペーンにも参加しています。下水管から河川への流入の状況確認も無論重要なチェック項目です。遊歩道沿いの花壇の手入れは昨年未まで10数年にわたり毎月第2木曜日午前中に越戸川と谷中川の合流点付近を中心に実施しておりましたが、樹木が順調に生長する一方で当会員の高齢化が進み、高所作業の継続は危険と判断、県の了解を得て、高所作業は県経由で業者に移管しました。低木の剪定と雑草取りは美化活動の一環として継続しています。一般市民の参加は何時でも歓迎です。</p> <p>② 夏休みジャブジャブ大会 水辺再生工事を機に17年前より開始しました。夏休みの思い出作りに子供向けの事業として毎年8月に開催して来ましたが、一昨年度より親子共に学び楽しめる場に変更しました。プログラムは教材用の小冊子を使用して青空教室と魚とり、水質調べ等です。参加者は毎回概ね100名程度で魚とりに熱中します。越戸川では手網でアユを捕まえる子供は珍しくありません。 なお、今年度は8月20日(火)開催予定です。</p> <p>③ 国土交通省所管の全国一斉身近な水辺の水質調査には当該調査開始以降20年皆勤、また環境省所管水生生物調査にも15年前から参加しています。採取された水サンプルの分析結果や指標となる水生生物の変化から、着実な水質改善が窺えます。</p> <p>④ 11年前より近隣の和光市立小学校2校の総合学習を支援しています。今年も既に北原小5年生と新倉小4年生各85名を対象に共に川の生き物調べをテーマに総合学習を実施しました。毎度のことで、川の中の子供たちは極めて生き生きとしており、見守る方も楽しくなります。今年子供達が捕まえた生き物は魚類がアユ等7種、エビ等甲殻類3種、ヤゴ等昆虫類3種類でした。今秋には川の水質調査をテーマに再度総合学習が実施される予定ですが、他のカリキュラムとの関係もあり、各校で調整中です。越戸川はますます学びの場としてその重要性を増しています。なお、本年度から両小学校のご父兄にも参加頂いています。</p> <p>⑤ 和光市立小中学校生や埼玉県立和光南特別支援学校初任教諭の夏休みボランティア体験活動を受け入れています。シニアが多数の当会会員にとり夏の盛りに汗を拭きながらの孫の年頃の小中学生や若い先生方との協働作業は楽しみでもあります。</p> <p>⑥ 和光市環境審議会、和光市環境づくり市民会議で代々中心的な役割を担っています</p>	<p>⑦ 多くの市民活動団体と行き来し、ネットワークを構築、また必要に応じ行政、一般市民、建設業者および専門家間の橋渡しを行っています。一例として3年前から東洋大学理工学部青木研究室のアユ等の遡上を補助する簡易魚道の設置研究を支援し成果を得ました。“NEXT 川の再生in越戸川”で計画されている魚道の新設に当研究成果が活用される見込みです。和光市環境審議会、和光市環境づくり市民会議等で代々中心的な役割を担っています。</p> <p>2. 課題と展望</p> <p>当会が活動を始めた頃の越戸川は都市化の進展に伴いヘドロが堆積し、悪臭漂う当時の典型的な小河川でしたが、下水道網の整備拡張や合併浄化槽の普及、当会の地道な努力、更には2008年から2012年にかけて実施された埼玉県の水辺再生工事(水辺再生100プラン)の効果が相俟って、今や清流が復活し、散策路を行き交う市民も増え、子供達の歓声が川面にこだましています。</p> <p>一昨年秋埼玉県より“NEXT 川の再生”事業で越戸川が唯一対象河川に選定された旨通知を受け、当会もこれに参画し、和光市役所及び多数の市民の協力を得て“NEXT 川の再生 in 越戸川”の工事内容が明らかになってきました。当該工事内容につきましては次ページを参照願います。</p> <p>さて、当会の最大イベントでこれまで25回開催の越戸川まつりを本年は開催取り止めとしました。本年4月の定時総会で侃侃諤諤の議論の末、取り止め已む無しの結論に至りました。当会に於きましても昨今の定年延長や社会保険給付年齢の引き上げ等に伴い前期高齢者がほぼゼロ化、一方後期高齢者は急増の状況です。当地に於きましてもボランティア活動を停止する団体が相次いでいます。このような事態に至らぬよう美化活動の継続を最優先に取り組んで参ります。</p> <p>幼稚園や小学校時に越戸川に親しみ、更に中学校時にボランティア活動等を通じて川への理解を深めた多くの子供達が年々巣立っています。これらの子供たちが成人して後大学生や社会人、或いはPTAの一員として当会の活動に参画する日を楽しみにしています。</p> <p>和光市のスローガンは“快適環境都市”、当会は町づくりの一翼を担い、多くの市民と手を携えて“生き物と人と風景が溶け合う越戸川”から“人も生き物も、もっと遊びたくなる川へ”と引き続き実践して参ります。</p>
事業実施期間	2024.4 ~ 2025.3	
事業実施場所	埼玉県和光市内の新河岸川水系越戸川	
事業総額	253,540円	
助成金額	100,000円	

団 体 名	学校法人 大阪学園 大阪高等学校 科学探究部	
代 表 者	科学探求部顧問 谷脇 鉄平	
所 在 地	大阪府大阪市東淀川区相川2-18-51	
事 業 内 容	<p>1. 背景</p> <p>環境問題は、21世紀に解決すべき地球規模の危機的課題とされており、次世代の人材育成においても環境問題に関する教育は、重要な項目の1つである。事実、SDGsが国連サミットで採択され、2030年までの国際目標とされている。しかしながら、昨今の子どもたちを取り巻く受験環境では、進学のための勉強に偏りがちとなり、自然と触れ合う体験が少ないことや、理科及び環境教育で重要な実験授業やフィールドワークが困難であることも事実として存在している。</p> <p>また、2020年～2023年までは新型コロナが世界規模で流行したことで、実験やフィールドワーク等の学びの実体験を伴う活動が制限されたため、実際に本校でもここ4年間は学びの実体験が少ない入学者が多く、これまで経験したことが無い深刻な課題として受け止めている。</p> <p>そのような背景がある中、これまで本校科学探究部が取り組んできた「環境DNA分析を利用した研究活動」の実績は、2017年から始めた京都産業大学との共同研究(高大接続)は第1回及び第3回環境DNA学会(高校生部門:最優秀賞)等、2020年から始めた富山大学学術研究部理学系の山崎裕治准教授との共同研究(高大接続)は第4回環境DNA学会、令和4年度及び令和5年度日本水産学会春季大会(高校生部門:最優秀賞)、令和5年度河川基金研究成果発表会(研究者・研究機関部門:優秀成果表彰)等で発表し、クラブ活動を通じた教育・研究実践が「高校生らしい活動」として評価いただいた。</p> <p>コロナ禍でも充実した活動実績を築き上げたことで、これらの評価を得た生徒たちは、活動実績を生かし総合型選抜や学校推薦型選抜で多方面の進学実績に繋がった。</p> <p>2. 計画内容</p> <p>第五次タナゴ類調査(2024年7月又は8月)を計画した上で、第三次～第五次タナゴ類調査を解析しながら、特に、タイリクバラタナゴは重点対策外来種に指定されているため、タイリクバラタナゴの生息マップの作成を試みたい。</p> <p>その理由としては、氷見市内の河川には希少在来種でタイリクバラタナゴと同じくタナゴ類のイタセンパラ(天然記念物)やヤリタナゴ(富山県絶滅危惧1類)が生息しており、実際、ヤリタナゴに関しては万尾川でタイリクバラタナゴとの交雑個体群が確認)されているため、希少在来種への影響が拡大していかないように、生息マップが一つの啓発活動になるようにしていきたい。</p> <p>また、イタセンパラ、ヤリタナゴ、ニッポンバラタナゴ以外にも希少なタナゴ類は他にもいる中、タイリクバラタナゴは全国に分布し全国規模の課題でもあるため、一連の研究結果を各学会などで発表し、外部評価を得ながらタイリクバラタナゴの影響がある他の地域にも情報発信をし、地道な活動ではあるが環境DNA分析を通して、いずれは全国各地で本来の生態系が保全されるようなきっかけに繋がりたい。</p>	<p>3. 計画スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2024年7月又は8月 第五次タナゴ類調査</li> <li>2024年9月24日～27日 日本水産学会秋季大会:京都大学</li> <li>2024年10月18日～20日 日本陸水学会:熊本大学</li> <li>2024年12月2日～3日 環境DNA学会:つくば国際会議場</li> <li>2025年3月15日～19日 日本生態学会:札幌コンベンションセンター</li> </ul> <p>4. 期待される効果</p> <p>2020年度の大学入試選抜改革により、小論文や面接だけでなく活動実績も、入試選抜(総合型・学校推薦型)の評価対象に含まれるようになった。</p> <p>事実、2020年に高校2年生だった科学探究部の生徒は山崎先生と出会い、環境DNAを通じて学び得た実績を活用して総合型選抜入試に臨み、富山大学理学部生物学科へ進学(2022年度1名、2023年度1名)した。</p> <p>これまで取り組んできた活動内容は、まさに文部科学省の「高大接続改革」や経済産業省の「未来の教室」に関連するだけでなく、新学習指導要領(2022年度実施)のねらいである探究活動の実践モデルの「新しい学び」を体現した例である。</p> <p>この新しい学びは、座学とは異なり、主体的な学びの実体験を通じて生徒たちがより明確な目標に向かうための意識付けや、やる気スイッチを入れるためのきっかけとなる。</p> <p>従って、これまでの活動を通じて確立された次の「柱」を大切にしながら、今後はアカデミックレディネスを目指した新しい高大接続の実践モデルにもチャレンジし、教育支援していきたい。</p> <p>① 生徒たちが立案した環境保全計画や活動実践を、理科教育の現場や市民向けのイベントで情報発信することで、多くの生徒や市民が身近な自然科学により興味関心を抱き、将来の進学目的や環境への意識等の芽生えにつなげたい。</p> <p>② ワクワク感を抱かせる「学びの実体験」を提供することで、学としての理科の重要性を生徒や教員が再認識するきっかけにつなげたい。</p> <p>③ これらの実体験を客観的に評価いただくためにも、積極的に外部発表に取り組み、今後社会で求められる「生きる力・タフな人間力を育む」ことを狙いながら、生徒たちの成長育成につなげたい。</p>
事業実施期間	2024.4.1～2025.3.31	
事業実施場所	ひみラボ(富山大学理学部・氷見市連携研究室)	
事業総額	986,620円	
助成金額	200,000円	